



6月は父の日がありますが、5月の母の日ほど大事にされず義理で行われているような思惑もあります。家庭における父の役割と尊敬があまり認められていないのかもしれない。

私の父は明治生まれの頑固親父でしたが、9人兄弟の末っ子の私は怒られた思い出がありません。姉や兄が怒られるのを小さい時から見て育ち、怒られそうなることをしなかつたからかもしれない。姉たちは、父が私を可愛がっていたからだと言います。言い訳や嘘には厳しく、筋が通らないことは自らもしない父でした。二人の姉が子供のいない本家に養子に行き、経済的には兄や姉も高卒後は家にお金を入れていました。厳しい時の姉は夜間高校でしたが、皆が私には貧しい思いは感じさせないようにしていたような気がします。姉たちは、私に小遣いをよくくれました。

職人用の草履を素材から作り販売していましたが、経済的に厳しい時には古鉄も扱っていました。車に乗れない父は、自転車にリヤカーを付けて古鉄を取りに行きますが、重い時には私がリヤカーの後ろに乗り、帰りは後ろで押して来ました。前橋市の中心街に住んでいたのです、その姿を友達に見られたら恥ずかしいとびくびくしていました。しかし、汗まみれになって自転車を引く張る父を見て、恥じる自分こそ恥ずかしいと気が付いたのは小5の時でした。小さい時から本を多く読んでいたので、「小公子」や「フランダーズの犬」などを読み、恥じることにない生き方をしたいと考えていたのでした。

学に志した私を支援するのが父の生き甲斐であったようです。良い成績を取っても誉めず、何をしても口出しをせず、父は黙々と働いていました。両親の信頼と希望を受けていたら悪いことはできるものではありません。高校まではこの両親を幸せにしたいと考えて努力をしていました。しかし、大学に行き、社会を知ると前橋に帰ってできる仕事はないと思ひ、そのことを伝えても、決して落胆を見せない両親でした。ともかく、立派に社会の為に働いてくれたら、親のことなど考えると言われました。

医師になる女性との結婚を伝えたら、本当に喜んでくれました。牧師になると伝えたら、せっかく大学院も出たのだから、歳を取り経験を積んでからのほうが良いのではと、初めて意見を言われました。牧師になることを猛反対された妻の家にも取りなしてくれました。子供も増えて落ち着いた我が家に来た時に孫を膝に抱いた父を見て涙が出て来ました。親には報いられないものです。

事務長 柏崎久雄

### 感染症で受診される方へ

発熱やくしゃみ・咳症状のある方、水ぼうそう等伝染性疾患の子どもの方は、入口、待合室・診察室、会計の流れが異なります。また、トイレ後のハンドソープによる手洗いに協力ください。

#### ★ 入口

正面入口横の中央通路のインターホンを押してください。

#### ★ 待合室・診察室

2階の、第二待合室です。

#### ★ 会計

疾患によっては、廊下会計となる場合があります。

### ヨーゼフのキャンペーン

ヌクレオ B、イノシトール B3、ナイシ TR、B12・葉酸+B1・6  
6月1日(水)~7月8日(金)

聖書を読む会 6/14(火)13時40分

- \* 6月3日(金)、28日(火)は院長が院外健診の為、午後の診察は15時からになります。
- \* 新型コロナウイルスの感染が警戒されています。院内に入る前にマスクを付け、入り口に置いてあるアルコール消毒薬で手を十分に殺菌してください。周りの人にご配慮ください。トイレは待合室毎に指定の所をご利用ください。
- \* 発熱外来と新型コロナウイルス検査は14時から16時だけで、予約が必要です。来院時は裏のインターホンでお知らせください。コロナ検査だけの方は一階奥に設けた特別検査室で行います。通常診察は、この時間は受け付けません。
- \* 車内で検体採取などがあるので、当院駐車場の利用は当院の受診時間だけにしてください。薬の受け取りなどは駐車場を出てからしてください。検査ができなくなるので、ご協力ください。
- \* 予約診療を来院による普通診療と並行して受け付けています。ウェブ問診も始まっています。受診時に記入する問診票を事前入力できます。オンライン診療もおこなっております。ホームページ下のタブより申し込んでください。電話再診もご利用ください。
- \* 病児保育は、他院で受診しても、当院院長の診察を必須条件として利用していただけます。
- \* 自然・アレルギー対応食品販売のヨーゼフでは6月よりヴィーガン対応食品の販売を始めます。詳細は案内チラシやオンラインショップをご覧ください。

## < 子供の成長と注意点。父親と母親にとって。 >

先月は母の日にちなんで母親になるための健康上の必要をまとめました。6月は父の日があります。母親は妊娠と共に母親になるための成長を始めるのですが、父親の場合は、子育てを共有しないと父親として成長せずに家族の中で孤立してしまい、また健全な家庭が形成されないことがあります。母親は母親教育や子育てを勉強し、またその意欲がありますが、父親教育というものは日本では定着せず、父親がどのようにして良いかわからないので、妻の学びや要求を真似ることがあります。そういう面で、父親が優しくなり（甘やかし？）、社会のルールやマナーを教えないので、子供たちがどのように生きて良いのかわからない、自分中心に考える、ということが最近の特徴であると思われます。

徒弟制度や保守的な閉鎖社会では、親の姿を見て学べ、などという考え方がありましたが、忙しく情報過多で多様な現代社会で子供たちが成長を遂げていくためには、父と母がそれぞれの役割を適切に果たして子育てをしていく必要があります。キリスト教牧師としての個人的な見解を述べます。男女について断定的な表現がありますが、これも一つの見解として捉えてくださればと願います。

カトリックの司祭であり、上智大学教授、栄光学園校長、理事長として活躍したグスタフ・フォスは『日本の父へ』で父親の役割の重要性について述べています。自信を喪失した日本の父親たちに「お父さんがどんな風に人生に伴う浮き沈みにぶつかってきたのか、どのように成功や失敗をしながら、人生の楽しいこと、辛いことを受け止めたのか、そのことを子供は知りたがる。抽象的な説教がましい感想は抜きにした実話こそ、息子は、娘は、心の糧にしたいのである」と父親の真摯な人生への対応を大事にします。そして、「身を立てて出世する人間よりも、むしろ、心を立てて、真心を持って自己の人生を聡明に送りながら、他人のために尽す人間を育てていくという人間教育こそが教師に求められている」として、教育論にも言及しています。

### A. 父親の役割

#### 1. 教育と社会のルールを教える。

母親が優しくかつ論理的な教育をする育て方には無理があります。子育てにおいて母親の非論理的な優しさや受容が大切ですが、子供の要求や状況を理解して配慮すると、しっかりとした教育は難しくなります。人間は、巧みに全てをこなすことはできませんが、自分のできることをきちんと果たすことで、残りは子供の成長に委ねるのです。父がしっかりと社会の規範を教えれば、子供は未知の社会への道を歩むことに不安を感じないのです。

父親が基本的に教えるべきことは、従わなければならない社会のルールです。そして、守るべきマナーです。人と接する時、食事の時、組織や上司との対応、それらを家庭の中できちんと丁寧に教えることができるのは父親です。そんなきちんとしたことでなくても、年長の人、高齢者、弱者への配慮、果たすべき責任や義務、それを守ることを身に着けるならば、その子は道を迷うことはありません。厳しくしなければならない時もあるでしょうが、その厳しさは母親には難しいものです。食事の時にマナーや食べ方、好き嫌いはダメ、などと母親から言われ続けると食事が楽しくなくなります。たまに、父親がバシッと言えば良いのです。

#### 2. 人生の価値観と生き甲斐を教える。

最近は多くの父親が自信を持っていないように思われます。どのような組織にもグループにも、歩んでいくためにはリーダー、指導者が必要です。威張るということではありません。両親ともに、社会の価値観に劣等感を抱いたり、卑屈になったりせず、周囲に惑わされず、損得に惑わされずに生きることが大事です。社会的地位を家庭に持ち込んでではなく、社会の荒波を家庭の長として対処するのが父親の役割です。

母親だけの家庭や、父親が頼りない家庭ということもありますが、だからといって、母親が優しくったり、ある時には厳しかったりすると、子供の情緒は不安定になります。母親としての特性に絞ったほうが良いと思います。父親だけの場合でも、料理や家事を巧みにこなしたとしても、仕事や人生の厳しさ、何らかの決断が必要な社会性を並行して教えることが難しくなります。一人の親が父母両方の役割を果たそうとすると無理が生じます。収入が少ないとの愚痴や、夫に対する不満を言葉に出すと、子供たちは親への信頼を形成できず、仕事や結婚などの将来に対する希望を形成できません。大事なことは親との信頼関係を確保してこそ、社会との健全な接点が始まるということです。

### 3. 安易に褒めない。

褒めて育てる、と言われますが、褒められてばかりいると、褒められないことに不満を持ち、或いは褒められようとして無理をします。また、失敗や悪い成果を隠すようにもなってしまいます。褒められることに喜びを持つよりも、努力したことや、成果を出したことに自ら誇りを持つように育てるのは、父親の役割であると思われます。母親も褒め過ぎずに、子供の喜びや悲しみを打ち明けられ易い優しさを持つことが必要です。母の厳しさは卑屈な子にしてしまう可能性があります。

### 4. 決断し責任を取ることの重要性を伝える。

子供に思い通りのことをさせようとする親は不適切な期待を押し付けてしまうかもしれません。子供には経済力も知識も経験ありません。母親は子供の側に立ち、子供を守ることが大事です。父親は、子供の能力、状況、社会の様相、経済力、その他のことを判断分析して、子供に判断の理由を説明して、結果と支援に責任を取るのです。

## B. 社会の価値観や考え方について

### 1. 優しさについて

女性は伴侶に優しさを求めるようです。性格的に優しい人もいますが、男性に求められる優しさは歳を重ねないと得られないものです。若い時はひたむきに仕事をし、失敗を重ね、経験を積んで人に対する理解を深めて優しくなっていくものです。

女性が怒りやすくなるのは男性に守られておらず、自ら防衛と戦いに対応しなければならないときで、子育てや家庭に夫が対応していないと優しくなれないものです。優しさと似ている優柔不断では、決断や保護ができない場合があります。

### 2. 利益や成功、成績を求める傾向

子供が成長、成熟するのに長い期間と経験が必要です。両親が共に子供に期待を掛けると、自らの考え方も、能力も、体力も、知識も十分でない子供には大きな負担となり、精神的にも偏った性格になる可能性もあります。特異な能力を示したとしても、10歳くらいまでは全体性を養うことを心掛け、15歳くらいまでは個性を育てる配慮をすることが大事だと思われます。有名、金持ち、運動を含めた才能、その他、子供たちには目立つ職業や才能に関心が集まります。父親や母親の仕事を含めて、多様なことを経験させることが大事です。母親のほうが話がしやすいのですが、父親の考え方も伝える努力が大事です。両親の性格や考え方が全く同じものであり、成績や勝利を一緒に子供に求めることは、子供の成長にとっては健全でないこともあります。

### 3. 完璧主義、一番を求めることについて

完全無欠な人は決しておりません。一番というのは相対評価であり、他の人より優れていなければなりません。相対評価を基準として生きると、自分より低いとみなす相手を軽んじることになりまます。そのように育てると、親が挫折したり歳を取ったりした時に我が子に馬鹿にされることになりまます。聖書の語る神の評価基準と、日本社会の定着した評価基準は異なっているようです。

### 4. 経験や知恵を積ませる。

外国では教科書のない学校が増えています。パソコンを駆使して、自らの工夫でゲームやソフト、データを作り出す子供たちも増えています。学校に行かず、ホームスクールで我が子を独自に育てよう、既成概念に囚われずに教育しようという親もおります。自然豊かな地域に移住して子育てをしようという人もおります。制度的に構築された現在の日本の教育では世界の変化の流れに乗れないこともあります。先生方の努力は大変なものですが、教育という組織や人間に自分の子の期待を多く負わせるのは無理なことです。子供たちは思わぬ変化、対応を見せて自然に成長していきます。

## C. 妻と夫の関係、父と母の関係

### 1. 父親と母親のパターン

- ① 父親主導 母親追従
- ② 母親主導 父親追従
- ③ 父母同権



どれが良いかとは言えません。ただ、男性と女性、父親と母親では、考え方・体力・感性・能力・限界・仕事・経験など違いが大きいことを認めなければなりません。私が子育てをした時、泣き止まない幼子にどうしようもなかったのに、妻が帰ってきて抱きしめたら、直ぐに泣き止んでしまいました。その時は、「私の方が時間をかけ手間もかけ配慮もしているのに」などと思い、母親には全くかわらない父親の限界に愕然としました。父親ではできないこと、ダメなこともあるものです。母親の優しさは、父親がいくら努力しても獲得できないものです。胎児の時、授乳の時、その後の10年間は間違いなく、子育ての主導権は母親のものであります。権力を固定的に握ろうとしてはいけません。

だからと言って、この頃に家庭に関心を持たず、家の采配も妻に委ねて子供のことを理解しないと、その後の成長期に子供は、父親に相談したり、範を見たりすることがなくなります。母親が働いている場合には、母親の方が優秀かつ努力をしているように思われ、子供の目には父親が疎ましく感じられます。特に、性的・飲酒・生活態度にふしだらな親は、子供を不幸にする要因を作り出しています。夫婦の仲が良いことが子供の健全な成長には非常に大事です。

## 2. 家庭における夫婦の言動

家庭における父親と母親の言動が子供にとっては最も身近な社会観であり、夫婦がいがみ合っていたり、口も利かない関係であったり、ため口の友達同士のようなものであったら、子供は自らが大人になった時に結婚しようとは思わなくなります。夫や妻を子供の前で非難したり馬鹿にしたりして、憂さを晴らしている親は、自分の子供を墮落させる教育をしているようなものです。

経済的な困難が話題であったら、子供にとって収入のことは何らかのトラウマになります。遊びに行くことばかりが話題であったら、結婚とは一緒に遊ぶ仲間のようなものとなり、職業や社会、そして人間性や道徳はあまり意味をなさないものとなります。食事でも趣味でも、それは生活の一部であり、夫婦がそれぞれの職業や立場を尊重して互いに助け合い、親族や地域の人々や友人を大事にし、子供を成熟した人間に育て上げることを生き甲斐にしているという日常生活が大事なのです。

## 3. 家庭の価値観

子供が第一、ではいけません。家族それぞれが大事であり、仕事や生活、そして趣味や生き甲斐をそれぞれが確保して助け合うことが必要です。子供の将来は不安定であり、だからこそ親は力を注ぎたいものですが、家庭の将来を子供に託しては子供にとって過剰負担となります。

人生には病氣・ケガ・不運・不幸が付き物です。子供たちは、それらに対する不安を抱いています。そのようなものに左右されない人生観、価値観をもって子供を育てれば、子供は安心して自らの歩みをすることができるでしょう。

[まとめ]

このような父親像を読んで驚かれたかもしれません。私の父親としての反省記です。若い時には、何事も一生懸命でしたが、それが子供たちにも私たち夫婦にも負荷を与えていたことに気が付くのに多くの時間と失敗がありました。ですから、日々の生活で、自らの価値観によって縛られ、かえって生活と自らを崩壊させていきそうな現役世代の人々を心配しています。

父親や祖父母や年長者などとの交流会話が子供達には少なくなっているようです。両親共に忙しく働く世代が子育ての期間でもあります。家族、夫婦でさえ、落ち着いて過ごせないのはしょうがありません。私たち夫婦も30代、40代の苦労と忙しさをよく乗り切ったものだとか懐かしんでいます。子供たちは、混乱し、忙しく、貧しかった家庭をそれなりに受け入れ、対応し、また覚悟してくれました。私たちの子は生活力が強いと言われますが、かえって苦労を掛けたことを思い出し、すまないと思います。明るく育ってくれたことが親の何よりの喜びです。

### ◀ 診療時間 ▶

月曜～金曜 (午前8時30分～11時30分、午後2時～5時10分)  
土曜 (午前8時30分～11時30分、午後2時～4時30分)

休診日 木曜、日曜、祝日、年末年始

- ・各種健康保険取扱機関
- ・生活保護指定機関
- ・介護保険取扱機関
- ・特定疾患取扱機関
- ・結核予防法指定機関
- ・自立支援医療機関
- ・身体障害者認定医
- ・各種健康診断
- ・小中台小学校校医
- ・栄養医学(分子整合医学)



(携帯サイトへ)